

もくじ 囚人墓地のその後 1P 千葉さなについて 2P
近郊の農産物 しめ飾り⑦ 3P お知らせコーナー 4P

足立史談

第506号

2010年4月15日
足立区教育委員会
足立史談編集局
足立区立郷土博物館内
〒120-0001
東京都足立区大谷田5-20-1
TEL 03-3620-9393
FAX 03-5697-6562
<22-308>

囚人墓地のその後

高野恒幸

『足立史談』第45号（昭和46・1971年11月発行）には「囚人墓地の移転」についての記事が掲載されています。それによると、「日之出町清亮寺（住職小林見諦師）の、東武線で分断された東側墓地に囚人墓地があったが、東武線の複々線化工事で立退くことになり、去る10月28日、墓地の管理者である東京拘置

所、工事施工者の東武鉄道、ならびに建設工事関係者、足立史談会有志らが30人ほど集まって移転のための法要を行った。

なお、この墓碑等は11月1日に解体し、雑司ヶ谷霊園に送られた」と記されています。

この墓碑については、瀧善成氏が『足立史談』第41号に「清亮寺の墓碑（下ノ二）」として、詳しく発表されています。この囚人墓地は雑司ヶ谷墓地に移転をしましたが、法務省管轄



上：遺骨を安置する合葬之碑（同）
下：由来碑（高野恒幸氏撮影）



によってフェンスで囲われた墓碑は拝見できない場所にありました。
この度、高野恒幸氏から貴重な写真と記事をいただいたので「囚人墓地のその後」と題して掲載します。
(足立史談会)

雑司ヶ谷霊園管理事務所の北側に、フェンスに囲まれ訪れる人も無い墓地があります。此処は現在東京拘置所管理地として、明治12（1879）年以来、都内各集治監・監獄・刑務所に在所中に死亡し、引取り人の無い遺骨五千体余りが埋葬されていた場所でした。都電よりの道を西に墓地が途切れた箇所に、鉄扉を開けると、さらに東京拘置所と書かれた門扉があり、左側沿いに先ず地蔵尊立像とその由来碑、供養碑や更生保護施設在所中に

死亡し引取り人の無い遺骨を安置した墓石などが並んでいます。

正面には昭和63（1988）年2月建立の由来碑が、その後には平屋コンクリート造り二〇坪程の倉庫風の納骨堂があります。出入りは西側から窓の無い建物です。祭壇は50センチほど高く、中央には合葬之碑と刻まれた自然石が建てられ、その地価には収集した遺骨が安置されています。

毎年7月の盆法会が教誨師を導師として行われ、また、春秋彼岸には墓前にて法要が営まれております。納骨堂の南には明治・大正・昭和期の集治監・監獄・刑務所の合葬碑4基が在り、獄死や刑死した死亡者数が彫り記されています。

由来碑

この納骨堂は、当所所管墓地七千七百五十万平方メートルの南西部七千七百平方メートルを東京都豊島区に割譲、集約整備するに当たり建立されたものである。

この墓地には、東京拘置所、府中刑務所、及び既に廃庁となった小菅刑務所、中野刑務所、並にこれら施設の前身である東京集治監、東京監獄、巣鴨監獄、小菅監獄、市谷監獄、豊多摩監獄、市谷刑務所、巣鴨刑務所、豊多摩刑務所に在所中死亡し、引取り人の無い者の遺骨五千余体が埋葬されていた。

この度、これらを隈無く収集し、一堂に納めて改葬し、永くその霊を弔うとともに、点在した施設ごとの合葬碑、供養碑及び地蔵尊は堂周辺に寄せて祀り、墓地中央に在った、合葬之碑はこれを堂内に安置し、歴史の証とするものである。

昭和六十三年 二月
東京拘置所長 堀 雄
(足立史談会会員・千住河原町自治会会長)

